

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 2019年11月14日

【四半期会計期間】 第45期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 株式会社エコノス

【英訳名】 ECONOS Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 長谷川 勝也

【本店の所在の場所】 北海道札幌市白石区北郷四条13丁目3番25号

【電話番号】 011-875-1996 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役副社長 新行内 宏之

【最寄りの連絡場所】 北海道札幌市白石区北郷四条13丁目3番25号

【電話番号】 011-875-1996 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役副社長 新行内 宏之

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人札幌証券取引所
(北海道札幌市中央区南一条西5丁目14番地の1)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第2四半期 連結累計期間	第45期 第2四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	1,875,927	1,915,613	3,870,614
経常利益又は経常損失 () (千円)	961	88,961	72,345
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	23,974	116,117	9,603
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	23,937	112,621	9,949
純資産額 (千円)	261,154	184,304	297,258
総資産額 (千円)	2,449,630	2,588,042	2,651,576
1株当たり当期純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	27.70	132.13	11.02
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	10.72
自己資本比率 (%)	10.7	7.1	11.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	70,006	142,678	112,677
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,536	92,537	1,291
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	86,880	170,597	29,541
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	408,856	446,379	511,173

回次	第44期 第2四半期 連結会計期間	第45期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純損失 () (円)	2.81	94.36

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第44期第2四半期連結累計期間及び第45期第2四半期連結累計期間は潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、関係会社における異動は以下のとおりです。

（低炭素事業）

当第2四半期会計期間において、当社の連結子会社である野空ニ使ニ保信息咨ニ(上海)有限公司の清算に伴い、連結の範囲から除外いたしました。

なお、2019年8月8日において、以下の連結子会社は社名変更いたしました。

ブルードットグリーン株式会社（旧マイクライメイトジャパン株式会社）

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の底堅い推移や雇用情勢の改善により、緩やかな回復基調で推移いたしました。

一方で、米国に端を發した貿易摩擦問題及び英国のEU離脱問題の長期化、地政学的リスクによる世界経済の減速懸念とそれに伴う株式市場・為替市場の不安定さなどにより、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。また、今年10月から施行される消費税増税の国内消費への影響度合いも不明瞭な状況であります。

当社グループにおきましては、リユース事業は、新規店舗を除く既存店舗の売上高が北海道胆振東部地震のあった前年同四半期並みにとどまったこと、並びに、粗利益率が若干低下した一方で、主にパート・アルバイト従業員の増員による人件費等の増加及び当第2四半期におけるエコタウン旭川西店の開店費用が発生したことにより、販売費及び一般管理費が大きく増加した結果、セグメント利益が大きく減少しました。ただし、リユース商品の買取については好調に推移し、前年実績を大きく上回りました。次に、低炭素事業につきましては、海外取引先への売上が好調であったことにより、前年同四半期と比較して売上高が増加し、かつ、人件費等の経費が減少したため、セグメント損失は前年同四半期に比べ改善いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は売上高1,915,613千円（前年同四半期比2.1%増）、営業損失63,720千円（前年同四半期は営業利益22,738千円）、経常損失88,961千円（前年同四半期は経常損失961千円）、特別損失として賃貸借契約解約損4,800千円を計上したことによって、親会社株主に帰属する四半期純損失116,117千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失23,974千円）となりました。

セグメントごとの業績を示すと、次の通りであります。

(リユース事業)

リユース事業におきましては、新規店舗を除く既存店舗の売上高が北海道胆振東部地震のあった前年同四半期並みにとどまったこと、並びに、粗利益率が若干低下した一方で、主にパート・アルバイト従業員の増員による人件費等の増加及び当第2四半期におけるエコタウン旭川西店の開店費用が発生したことにより、販売費及び一般管理費が大きく増加した結果、セグメント利益が大きく減少しました。ただし、リユース商品の買取については好調に推移し、前年実績を大きく上回りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は売上高1,802,301千円（前年同四半期比1.7%増）、セグメント利益は100,698千円（前年同四半期比41.1%減）となりました。

当第2四半期連結会計期間末現在におけるリユース事業の各業態別の店舗数は以下の通りであります。

(単位：店)

	ブックオフ 事業部	ハードオフ事業部				ハードオフ 事業部計	合計
		ハードオフ	オフハウス	ホビーオフ	ガレージ オフ		
店舗数	17	14	17	16	1	48	65

(注) ブックオフ事業部の店舗数にはインターネット販売の1店舗を含みます。

(低炭素事業)

低炭素事業におきましては、海外取引先への売上が好調であったことにより、前年同四半期と比較して売上高が増加し、かつ、人件費等の経費が減少したため、セグメント損失は前年同四半期に比べ改善いたしました。

PPS(特定規模電気事業者)等を中心として、カーボン・オフセットの需要は引き続き旺盛でありますので、当社グループとしましては、カーボン・オフセットの仕入を円滑に行うことにより、利益の確保に努めてまいります。

なお、カーボン・オフセット・プロバイダー事業につきましては、年度上期に受注して年度末に業務が完了する契約が多いという特徴があります。そのため、売上計上までに経費が先行して計上され、第3四半期連結累計期間までは営業利益のマイナスが続く傾向があります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は売上高95,508千円(前年同四半期比10.6%増)、セグメント損失は24,885千円(前年同四半期はセグメント損失26,919千円)となりました。

(その他)

本セグメントは報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業とiCracked Storeの運営を通じてiPhoneの修理等のサービスを行うリペア事業を含んでおります。

リペア事業につきましては、当第2四半期においてiCracked Store吉祥寺を新規オープンし、開店費用を計上いたしました。

以上の結果、本セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は売上高17,803千円(前年同四半期比2.0%減)、セグメント損失は6,920千円(前年同四半期はセグメント利益512千円)となりました。

財政状態の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、1,365,616千円となり、前連結会計年度末と比べて135,570千円の減少となりました。これは、主に現金及び預金の減少64,794千円及び売掛金の減少94,293千円によるものです。

また、当第2四半期連結会計期間末における固定資産は、1,222,425千円となり、前連結会計年度末と比べて72,035千円の増加となりました。これは、主に有形固定資産の増加50,618千円及び投資その他の資産の増加18,290千円によるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、942,212千円となり、前連結会計年度末と比べて113,992千円の減少となりました。これは、主に買掛金の減少69,845千円及び未払金の減少50,783千円によるものです。

また、当第2四半期連結会計期間末における固定負債は、1,461,525千円となり、前連結会計年度末と比べて163,411千円の増加となりました。これは、主に長期借入金の増加154,743千円及び繰延税金負債18,104千円によるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、184,304千円となり、前連結会計年度末と比べて112,954千円の減少となりました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純損失116,117千円の計上によるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は446,379千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により減少した資金は142,678千円（前年同四半期は70,006千円の収入）となりました。これは、主に減価償却費の計上37,317千円、売上債権の減少94,293千円による資金の増加があったことと、税金等調整前四半期純損失の計上93,761千円、未払金の減少50,764千円、未払消費税等の減少15,175千円による資金の減少があったためです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により減少した資金は92,537千円（前年同四半期は3,536千円の支出）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出76,647千円、敷金の差入による支出14,496千円による資金の減少があったためです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により増加した資金は170,597千円（前年同四半期は86,880千円の支出）となりました。これは、主に長期借入金の増加による収入330,000千円の資金の増加があったことと、長期借入金の返済による支出131,710千円、リース債務の返済による支出18,229千円による資金の減少があったためです。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,600,000
計	2,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	879,498	879,498	札幌証券取引所 アンビシャス	単元株式数は100株で あります。
計	879,498	879,498		

(注) 提出日現在発行数には、2019年11月1日からこの四半期報告書提出日までの間に、新株予約権(ストックオプション)の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日(注)	400	879,498	51	213,947	51	162,274

(注) 新株予約権(ストックオプション)の行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
長谷川勝也	札幌市中央区	232,085	26.39
株式会社ハードオフコーポレーション	新潟県新発田市新栄町3丁目1番13号	155,400	17.67
ブックオフグループホールディングス株式会社	神奈川県相模原市南区古淵2丁目14番20号	81,000	9.21
石澤淳一	札幌市白石区	55,797	6.34
エコノス従業員持株会	札幌市白石区北郷四条13丁目3番25号	39,381	4.47
道銀どさんこ3号投資事業有限責任組合	札幌市北区北七条西2丁目20番地	37,900	4.31
水谷清文	三重県三重郡菟野町	36,800	4.18
マイルストーンキャピタルマネジメント株式会社	東京都千代田区大手町1丁目6-1大手町ビル4階	36,000	4.09
若杉精三郎	大分県別府市	26,900	3.05
尾西利子	札幌市白石区	22,137	2.51
計		723,400	82.27

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 878,600	8,786	
単元未満株式	普通株式 698		
発行済株式総数	879,498		
総株主の議決権		8,786	

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社エコノス	札幌市白石区北郷四 条13丁目3番25号	200		200	0.02
計		200		200	0.02

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	511,173	446,379
売掛金	175,203	80,910
たな卸資産	1 757,910	1 771,553
前払費用	49,841	50,520
その他	7,057	16,253
流動資産合計	1,501,186	1,365,616
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	133,681	166,727
工具、器具及び備品(純額)	86,848	118,153
土地	115,483	115,483
リース資産(純額)	437,040	422,763
その他(純額)	2,631	3,175
有形固定資産合計	775,684	826,302
無形固定資産		
その他	1,727	4,854
無形固定資産合計	1,727	4,854
投資その他の資産		
投資有価証券	30,051	36,174
敷金	276,830	284,207
繰延税金資産	5,290	-
その他	60,806	70,886
投資その他の資産合計	372,978	391,268
固定資産合計	1,150,390	1,222,425
資産合計	2,651,576	2,588,042

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	76,438	6,592
短期借入金	450,000	450,000
1年内償還予定の社債	16,600	17,000
1年内返済予定の長期借入金	239,101	282,647
リース債務	35,842	36,187
未払金	99,087	48,304
未払費用	63,147	68,421
未払法人税等	23,315	11,119
未払消費税等	18,829	8,405
賞与引当金	-	1,515
ポイント引当金	3,677	3,912
その他	30,163	8,104
流動負債合計	1,056,204	942,212
固定負債		
社債	58,700	50,000
長期借入金	466,293	621,036
リース債務	586,780	573,087
長期未払金	51,813	47,860
長期前受収益	16	-
退職給付に係る負債	46,733	50,721
資産除去債務	87,475	100,415
繰延税金負債	-	18,104
その他	300	300
固定負債合計	1,298,113	1,461,525
負債合計	2,354,317	2,403,737
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,895	213,947
資本剰余金	162,222	162,214
利益剰余金	82,180	198,623
自己株式	164	164
株主資本合計	293,773	177,374
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,859	6,930
為替換算調整勘定	575	-
その他の包括利益累計額合計	2,283	6,930
非支配株主持分	1,201	-
純資産合計	297,258	184,304
負債純資産合計	2,651,576	2,588,042

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	1,875,927	1,915,613
売上原価	620,116	672,849
売上総利益	1,255,811	1,242,764
販売費及び一般管理費	2 1,233,072	2 1,306,484
営業利益又は営業損失()	22,738	63,720
営業外収益		
受取配当金	803	873
受取手数料	4,552	4,747
協賛金収入	870	870
その他	5,326	4,028
営業外収益合計	11,552	10,519
営業外費用		
支払利息	33,928	33,003
その他	1,324	2,757
営業外費用合計	35,253	35,760
経常損失()	961	88,961
特別損失		
賃貸借契約解約損	-	3 4,800
災害による損失	4 2,591	-
特別損失合計	2,591	4,800
税金等調整前四半期純損失()	3,553	93,761
法人税、住民税及び事業税	4,893	2,044
法人税等調整額	15,527	21,462
法人税等合計	20,421	23,506
四半期純損失()	23,974	117,268
非支配株主に帰属する四半期純損失()	-	1,150
親会社株主に帰属する四半期純損失()	23,974	116,117

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純損失()	23,974	117,268
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	67	4,071
為替換算調整勘定	104	575
その他の包括利益合計	37	4,647
四半期包括利益	23,937	112,621
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23,937	111,470
非支配株主に係る四半期包括利益	-	1,150

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	3,553	93,761
減価償却費	38,055	37,317
長期前払費用償却額	1,272	400
災害損失	2,591	-
賃貸借契約解約損	-	4,800
受取利息及び受取配当金	817	877
支払利息	33,928	33,003
売上債権の増減額(は増加)	36,016	94,293
たな卸資産の増減額(は増加)	682	13,696
仕入債務の増減額(は減少)	15,307	69,845
未払消費税等の増減額(は減少)	4,979	15,175
未払金の増減額(は減少)	23,886	50,764
賞与引当金の増減額(は減少)	6,707	1,515
ポイント引当金の増減額(は減少)	1,934	234
前受金の増減額(は減少)	1,145	23,575
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	38	3,987
その他の資産の増減額(は増加)	11,805	7,841
その他の負債の増減額(は減少)	641	923
小計	108,006	99,062
利息及び配当金の受取額	1,096	875
利息の支払額	32,992	32,140
法人税等の支払額	4,137	12,351
災害損失の支払額	1,966	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	70,006	142,678
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	28,189	76,647
無形固定資産の取得による支出	-	3,400
敷金の差入による支出	10,155	14,496
敷金の回収による収入	35,197	2,319
投資有価証券の取得による支出	130	120
子会社株式の取得による支出	-	109
投資その他の資産の増減額(は増加)	259	82
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,536	92,537
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	50,000	330,000
長期借入金の返済による支出	114,042	131,710
社債の償還による支出	8,300	8,300
リース債務の返済による支出	17,106	18,229
長期未払金の返済による支出	1,283	1,264
ストックオプションの行使による収入	3,947	102
自己株式の取得による支出	95	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	86,880	170,597
現金及び現金同等物に係る換算差額	50	175
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	20,459	64,794
現金及び現金同等物の期首残高	429,316	511,173
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 408,856	1 446,379

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	
(連結の範囲の重要な変更)	
当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である野空 ⁴⁵ 使 ⁷² 保 ⁸⁸ 信 ⁸² 息 ² 咨 ² (上海)有限公司の清算に伴い、連結の範囲から除外いたしました。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1. たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
商品	756,728千円	769,382千円
未成業務支出金	1,182 "	2,170 "
計	757,910千円	771,553千円

(四半期連結損益計算書関係)

1. 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

低炭素事業におけるカーボン・オフセット・プロバイダー事業について、同事業を展開する当社の連結子会社であるマイクライメイトジャパン株式会社は、官公庁・自治体等向け売上が第4四半期連結会計期間に集中する傾向があるため、第4四半期連結会計期間の売上高が他の四半期連結会計期間の売上高と比較して多くなる季節的変動があります。

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
地代家賃	203,420千円	204,591千円
給与手当	271,085 "	282,587 "
雑給	256,317 "	288,248 "
減価償却費	38,055 "	37,317 "
退職給付費用	4,590 "	7,074 "
賞与引当金繰入額	6,707 "	1 "
ポイント引当金繰入額	1,934 "	234 "

3. 賃貸借契約解約損の内容は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
解約違約金	-千円	4,800千円
計	- "	4,800 "

4. 2018年9月に発生した北海道胆振東部地震によるパート・アルバイト従業員の休業補償、商品の廃棄損及び評価損、店舗什器の修繕費等であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金	408,856千円	446,379千円
現金及び現金同等物	408,856 "	446,379 "

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	リユース 事業	低炭素 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,771,366	86,391	1,857,757	18,170	1,875,927	-	1,875,927
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,771,366	86,391	1,857,757	18,170	1,875,927	-	1,875,927
セグメント利益又は 損失()	171,050	26,919	144,130	512	144,643	121,904	22,738

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及びリペア事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 121,904千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに属しない管理部門に係る一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	リユース 事業	低炭素 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,802,301	95,508	1,897,809	17,803	1,915,613	-	1,915,613
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,802,301	95,508	1,897,809	17,803	1,915,613	-	1,915,613
セグメント利益又は 損失()	100,698	24,885	75,812	6,920	68,891	132,611	63,720

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及びリペア事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 132,611千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに属しない管理部門に係る一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純損失()	27円70銭	132円13銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	23,974	116,117
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失()(千円)	23,974	116,117
普通株式の期中平均株式数(株)	865,555	878,833
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

株式会社エコノス
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 板垣博靖

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 萩原靖之

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エコノスの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エコノス及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。